

V-359

観音寺高架橋の長期計測について

住友建設(株) 正会員 室田 敬
住友建設(株) 正会員 山内 博司
日本道路公団 正会員 曾田 信雄

I. 業務概要

昭和61年3月より、観音寺高架橋の長期計測を開始した。これは、本橋の設計値と実測値の比較、設計値の妥当性の検討、および、橋梁の健全性の評価を目的とする。計測期間は、昭和61年3月より昭和64年3月までの3年である。計測項目は、橋梁の各部のたわみ、変位、温度、湿度、乾燥収縮率等である。計測結果は、毎月1回、関係機関に報告する。また、計測結果を基に、橋梁の設計値と実測値の比較を行い、設計値の妥当性を検討する。その結果、設計値は、実測値とほぼ一致しており、設計値の妥当性は、十分に確保されていると判断される。

- ① 長期計測の目的、計測項目、計測期間、計測結果の報告方法等について説明する。
- ② 長期計測の計画、計測装置の設置、計測結果の処理方法等について説明する。
- ③ 長期計測の結果、設計値と実測値の比較、設計値の妥当性の検討等について説明する。

II. 橋梁の構造と計測装置の設置

観音寺高架橋は、RC造の連続梁橋である。橋長は、約1.0kmである。橋梁の各部のたわみ、変位、温度、湿度、乾燥収縮率等を計測するために、計測装置を設置した。計測装置は、橋梁の各部に設置し、計測結果を自動的に記録する。計測装置の設置場所は、橋梁の各部のたわみ、変位、温度、湿度、乾燥収縮率等を計測するために、橋梁の各部に設置した。計測装置の設置場所は、橋梁の各部のたわみ、変位、温度、湿度、乾燥収縮率等を計測するために、橋梁の各部に設置した。

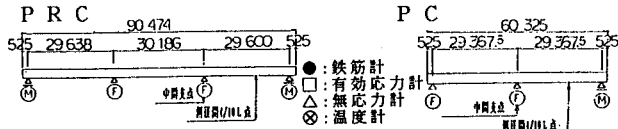


図-1 計器位置図

III. 乾燥収縮率の測定

乾燥収縮率の測定は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、乾燥収縮率計を設置した。乾燥収縮率計は、橋梁の各部に設置し、乾燥収縮率を自動的に記録する。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。

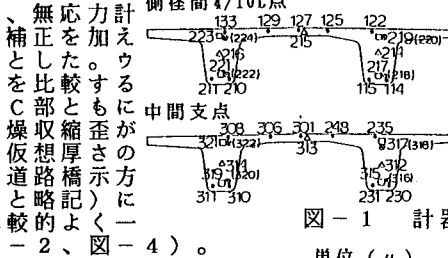


図-2 乾燥収縮率 (PRC中間支点)

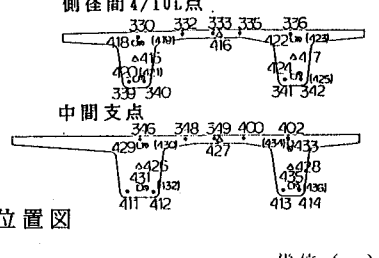


図-3 乾燥収縮率 (PRCスラブ)

乾燥収縮率の測定は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、乾燥収縮率計を設置した。乾燥収縮率計は、橋梁の各部に設置し、乾燥収縮率を自動的に記録する。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。

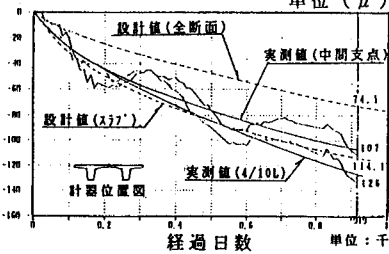


図-4 乾燥収縮率 (PC中間支点)

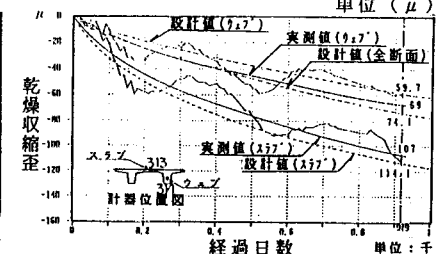


図-5 乾燥収縮率 (PCスラブ)

乾燥収縮率の測定は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、乾燥収縮率計を設置した。乾燥収縮率計は、橋梁の各部に設置し、乾燥収縮率を自動的に記録する。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。乾燥収縮率計の設置場所は、橋梁の各部の乾燥収縮率を測定するために、橋梁の各部に設置した。

V. 温度に對す

VI. まとめ

[illegible]